



灯欄に家族に関連したことを書くのはいかがなものかと思うが、昔の小さな思い出と仕事の関係から家族というものについて考えることがあり今回書かせていただいた。

最近の子供たちはおおむね自分の部屋というものを持っており、寝起きはマイルームのベッド、食事が済めば自分の部屋にこもる。そんな風景が当たり前になっている。わが家でも子供たちにはそれぞれの部屋を与えてきた。

振り返って私が小学生のころは玖珠郡九重町に住み、家族全員が一つの部屋で寝ていた。兄弟は横一列に、なぜか年齢順に

並ぶのはやはりそのころから家訓の長幼の序が定着していたのかもしれない。最近の子供は夜更かしの多いが、当時われわれ子供たちの寝る時刻は九時と決まっていた。

私は子供のころから寝付きが

家族考



草野 義輔

学生の私には中身はよくわからないものであったが、父は自分で読むと同時に繕い物をしていてページをめくれない母に読んであげているのだ。母が時々本の内容を父に質問していた。そのうち私は寝てしまふのだが、そんな光景に小さいながらも両親が仲良く力を合わせている、という安心感を感じていたように思う。

よくないので寝返りを打ちながらごろごろしていると、母は部屋の半分の明るい部分で繕い物などをしている。

やがて父がやってきて母の正面に座る。しばらくすると父が

本を声を出して読み始める。小間もなく父の八回目の命日がくる。

(日田市昭和学園高校理事長)